

# 人・街・ながた 震災資料室ニュース

2008. 10. 17

発行人 寿 広文

編集人 武川泰恵・藤原美紀

## 秋の震災資料室展

～真陽小学校避難所でのボランティアの記録をたどる～

震災資料室は、震災の体験を風化させずに後世に継承していきたいと平成9年1月に開設されました。毎年秋に保存している資料を公開しています。



今年は、震災当時 2,300 人が避難されていた真陽小学校での避難所運営をされていた自治労長野のボランティアの方々への聞き取り調査からみつかった震災資料（真陽小学校避難所での日誌、手作りの資料、ビデオ、避難所でのチラシなど）を展示、公開します。また、神戸学院大学水本ゼミの学生が震災資料から学んだ成果も展示します。ごゆっくりご覧ください。

と き：2008年11月21日（金）

）

11月26日（水）

（土・日・祝日もご覧いただけます）

じかん：9時～17時

ところ：長田区役所7階区民ギャラリー・  
大会議室ほか

\* 「神戸市職員が写した1.17」（DVD）も  
上映します

主催：人・街・ながた震災資料室

共催：長田区役所

協働：神戸学院大学水本ゼミ



### 長野県聞き取り調査報告④

**辰野町** 長野県のほぼ中央、諏訪湖の西南西に位置する。周囲が1,000m前後の山に囲まれており松茸が採れ、初夏にはホテルが多く飛び町のマスコットにもなっている。

話を伺うことができた3人は看護師だったので、辰野町総合病院の研究室へ案内され、茶菓子まで用意していただき、和やかな雰囲気の中での聞き取りとなった。

3人は3月1日からの第5グループでの参加であったが、医療班の人員は足りていたため、それぞれ移動入浴車または兵庫高校での入浴サービスに従事した。

羽場きく子さん（当時41歳、透析室勤務）は「重労働だった入浴介助の中で、震災後にお風呂に入ったのが2回目だと言う男性に感謝され、疲れも吹き飛んだ。」「あらためて1日1日を大切にしないといけないと感じた。今も透析室で勤務しているので、患者にも災害時にちゃんと指導できるよう、指導書を見直した。」と話していた。

小沢はつ江さん（当時41歳、内科病棟勤務）は「テレビで見るに絶えない映像を目にした。何か助けられることがあると思った。」と目に涙を浮かべながら当時のことを思い出していた。

西村チエさん（当時51歳、外科病棟勤務）は「地域防災も大切だが、災害時に一番頼りになるのは隣近所の深い付き合いだ。」と神戸と長野を比較して言われていた。

3人に共通していたことは「看護師ではあるがどんな仕事でもやるつもり。」「家族と職場が気持ちよく送り出してくれた。」ということだった。

貴重なお話をありがとうございました。

（小寺 忠則）

# 万葉のまち，真野（中村）町

4回の国勢調査を比較して⑬

|     | 1965年        | 1975年   | 1985年   | 1990年   | 1995年  | 2000年   | 2005年   | 05<br>90 |
|-----|--------------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|----------|
| 世帯数 | 221<br>(102) | 230     | 202     | 194     | 177    | 150     | 133     | 0.69     |
| 人口  | 864<br>(371) | 832     | 609     | 532     | 407    | 329     | 268     | 0.50     |
| 男   | 415<br>(182) | 394     | 283     | 243     | 186    | 153     | 125     | 0.51     |
| 女   | 449<br>(189) | 438     | 326     | 289     | 221    | 176     | 143     | 0.49     |
| 区人口 | 214,345      | 185,974 | 148,590 | 136,884 | 96,807 | 105,464 | 103,771 | 0.76     |

\*1965年の（ ）内は中村町の数字で内数

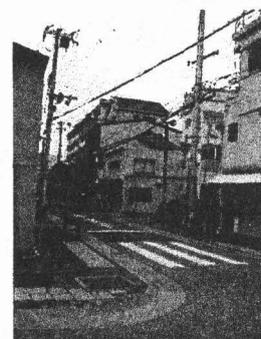
真野町は長田中学校と志里池小学校跡の公園に挟まれた池を埋め立てて出来た町である。

中村町は戦災復興土地地区画整理事業で1981（S56）年に換地処分され、翌年に住居表示で真野町となった。この地区で「中村」の名残があるのは新湊川に架かる中村橋と県営中村住宅である。

ところで、真野は古代、荻藻川（現新湊川）が深く湾入して真野の入り江と呼ばれていて、後に真野池となり、真野町となった。真野の名は奈良朝の万葉集以降多くの詠歌により「真野の篠原」「真野の池」「真野の浦」「真野の継橋」など有名な名勝として扱われている。

さて人口動態を見てみよう。世帯数のピークは1975年の230世帯だが人口は既に減少傾向が始まっている。震災年の減少が小さいのは仮設住宅57戸の建設が影響している、またこの時に一世帯当りの家族数が区平均を下回っているのも仮設住宅が原因だろう。因みに震災によるり災率は全棟数156で、全壊率53.8%である。

この地区は児童数の減少も続き、志里池小学校は神楽小学校と統合して長田南小学校となり、荻藻中学校は大橋中学校と一緒に長田中学校となった。



ここで真野に関する歌を紹介しよう。

（『長田の歴史』より）

真野の浦のよどの継橋こころゆも

思うや妹の夢にし見ゆる

人麿

蛙なく真野の池辺をみわたせば

岸の山吹花咲きにけり

仲實

葦の葉にまかふ螢のほのほのと

独そ渡る真野の継橋

長明

継橋のあとは水田に水鶏かな

芭蕉

吾妹子か袖をたのみて真野の浦に

小菅の笠をき捨来にけり

真照法師